

## 「ユネスコ」とは

国際連合教育科学文化機関。教育、科学、文化とコミュニケーションの分野で協力と交流を通じて国際平和と人類の福祉の増進を目指す国際連合の専門機関。

# 「原爆ドームを世界遺産に」

## 百万人署名達成

現在、原爆ドームを世界遺産条約に基く世界遺産に登録するための運動が、百万人署名を軸に進んでいるが、十月のユネスコへの推薦リスト提出を控えて百万人署名達成が9月達成された。

広島ユネスコ協会は、ここに至るまでに少なからぬ役割を担ってきた。

原爆ドームを世界遺産条約の遺産リストに登録するよう求めている広島市の動きを支援するため広島ユネスコ協会では、まず6月5日の日本ユネスコ協会連盟の今年度総会で河村顧問から次のような要請書を提案した。

〈原爆ドームの世界遺産一覧表への登録について〉

1945年8月6日、一発の原子爆弾の投下により広島市は廃墟と化した。ほぼ爆心直下にあった広島産業奨励館は大火炎上したが、奇跡的に本屋の一部は倒壊をまぬがれ、いつしか原爆ドームと呼ばれるようになった。

この原爆ドームを核兵器によ

る惨禍を物語る証人として、また核兵器の廃絶と世界の恒久平和実現を訴えるシンボルとして、永久に保存し、後世に引き継ぐべき世界の貴重な文化遺産として位置づけるため、「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」で保護する世界遺産として登録されることを切望する。

このため、日本ユネスコ協会連盟は文化庁並びにユネスコ本部に強力に働きかける運動を展開していただくよう要請するも

のである。

総会では本提案が採択され、理事会（栗野鳳理事長）へ付託して推進することになった。

次いで6月7日、広ユ協は広島弁護士会らと「原爆ドームの世界遺産化をすすめる会」を結成して参加、署名活動を展開してきた。

その結果、百万人の目標達成は現実となり、9月末の集約を経て10月中旬、政府、国会へ提出する予定である。

## 中国代表团七人が来広

### 第2次姉妹協定の初年度に

老朋来たる。広島ユネスコ協会は、10月10日、文团长以下の中国ユネスコ訪日団を迎えて日中友好の絆をさらに深めることになった。

今回の来日は、一九八八年締結（発効翌年。有効四年間）され、昨年再締結された第2次日中ユネスコ友好姉妹協会協定に基づくもので、その初年度の協定

実行である（協定は隔年に相手国を訪問するとなっている）。

協定締結前を含めて訪日団を迎えるのは今回で四度目になるが、今回、これまで限られていた北京市関係機関のメンバーに加えて新たに深圳市の顔ぶれがあり、中国におけるユネスコ運動の拡がりを示すものと言えよう。

当協会では一行をレセプション等で熱烈歓迎しつつ、原爆慰霊碑献花、原爆資料館見学、広島大学附属東雲小・中学校、広島市教育委員会訪問、マツダ見学を計画している。「民間交流が双方に発展を促す」（中国国際交流協会李滔副会長挨拶）昨年の締結式で「またとない三日間であってほしい」。

〈代表団の皆さん〉（敬称略）

団町 文結（北京市ユ協会顧問・北京市教育局副局長）

団員

楊宗志（北京市ユ協理事）  
冀茂林（北京市ユ協理事）  
何秀玲（北京教育学院ユネスコクラブ理事）

魏德純（北京市八一中学校副校長・同中学校ユネスコクラブ主幹）

趙長安（深圳市教育国際交流協会副秘書長）

牛梅莉（北京市民族職業高校教員）

通訳

牛梅莉（北京市民族職業高校教員）

## 北京ユ協訪日団

### 歓迎レセプション

日時 10月12日（火） 18：30  
会場 広島アステールプラザ  
会費 六千円



## 45回を迎えた 国際交流サロン

一九八八年一月（備前焼作家藤原雄氏）から始まった国際交流サロンは、回を重ねて先月九月開催の会で45回目を重ねた。一杯のお茶を飲みながら世界に目を開く楽しいひとときが会



（講師のお話のほかに、ご持参の現地の資料も紹介される）

（第45回サロンから）

員の皆さんに好評。今年度上半期の経過は次のとおり。

▽第42回・5月22日「韓国人の心のよりどころ」〓崔烈坤広島大学客員研究員。日本学術振興会外国人特別研究員（韓国文部省社会国際局長、ソウル特別市教育長などの経験をもとに韓国人の精神と風土を聞く）。

▽第43回・5月26日「留学生活ア・ラ・カルト」〓和田之織さん（オルガン奏者。エリザベト音大大学院生。オーストリア・ザルツブルク等での音楽修業と現地の音楽事情、生活体験について。演奏も披露）。

▽第44回・7月24日「日本人の考え方、中国人の考え方」〓杏国棟広島大学文学部外国人教師（北京外国語学院日本語学部と日本での日本文学研究をもとに夏目漱石と魯迅との対比など文学論、そのほか）。

▽第45回・9月48日「ルーマニアとブカレスト管弦楽団」〓光井安子エリザベト音楽大助教。チェンバロ奏者（ルーマニアの歴史、地理、民族をはじめチャウシエスク政権下の政治と国民の暮らし、文化行政等、そして同政権崩壊後のそれらの変化について。とりわけ音楽事情について）。

### 韓国ユネスコ

・ツアー

末野 忍

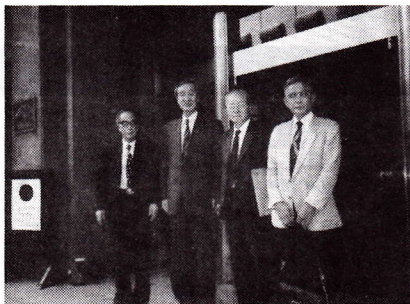
わが国と宿世の関わりをもつ隣国の首都ソウルは、遷都六百年を迎える。21世紀に羽ばたく韓国の素顔が見たいと、信井副会長を団長に、中谷、由田両理事を含む一行十八名が、ソウルを訪ねたのは、光復節（韓国の独立記念日）の翌日であった。森に囲まれたホテル新羅に旅装を解くと、李王朝時代の歴史が息づく景福宮を見学。奥まる一隅が「閔妃暗殺」の舞台。

「明成皇后殉国崇慕碑」の前では、誰も言葉も失っていた。暮れなずむコリアハウスの伝統料理と古典舞踊で、そぞろ旅情を満喫。

第二日は、日本の植民地支配の表徴だと、解体移築がままの国立中央博物館（旧朝鮮総督府）などの見学。ソウル目抜き通りに、八階建てのビルを構えるユネスコ会館を、信井副会長と末野常任理事が表敬訪問。ソウルユネスコ協会会長で、韓国ユネスコ連盟副会長も兼ねておられる趙哲華氏は、韓国赤十字では知られる温厚な紳士。

第三日は自由行動。希望者だ

（右から信井副会長、一人おいて趙ユ協会長、末野常任理事、ソウル・ユネスコ会館前）



祭とジュネーヴの旅」に参加し8日間の楽しい体験をした。会員でない私が加わったのはパリで「ヒロシマ国際アマチュア映画祭」受賞作品が上映されるということ、この機会に初めてのヨーロッパを見物したいということであった。

5月9日に広島を立ち、映画が誕生して百周年の、映画発祥の地パリに到着した時の胸の高鳴りは今も覚えている。パリのユネスコ本部では広島ご出身の平山郁夫画伯を囲む昼食会に臨み、その後、文化祭の一環として開かれた上映会では、広島の原因被爆をテーマにした作品をはじめ数本の作品を鑑賞した。異国の地で、しかも外国人の中で日本の作品を見ていると、外国人には解り難い日本独特の精神風土がどれだけ受け入れられたかなどが気になった。

平山、東山魁夷絵画展などの見学そしてパリ市内遊覧など慌ただしい3日間を過ごし、陸路ジュネーヴを訪れた。現地では、レマン湖、モンブランをビデオカメラに収めつつ堪能し、世界史の舞台ともなった欧州国連本部も訪ねた。

加藤朗一団長以下ユネスコの皆さん一二名の旅はチームワークも良く最高であった（U）。

### パリ・ユネスコ

・ツアー

この度、広島ユネスコ協会が呼び掛けられた「パリ日本文化



# 「世界遺産条約」とは… 人類のための自然文化遺産保護

本誌一頁に記載した原爆ドームの世界遺産化のための参考資料として世界遺産条約を紹介する。

## □条約の目的と意義

世界の文化遺産及び自然遺産が年月の経過による衰亡に加え人口の増大、社会経済の発展に伴う急速な産業化及び都市化、大気及び水質の汚染などの進行によるこれまでも増して破壊の脅威にさらされていることに鑑み、人類全体のために普遍的価値を有するこれらの遺産を国際的な協力によって保護するた

## □経過

1972年日本を含めたユネスコ総会で採択され、これまで百余か国が批准している。日本は1992年6月30日に批准し一二五番目の締結国となった。(9月30日条約発行)

所管の文化庁は世界遺産第一次リストに文化遺産では法隆寺と姫路城、自然遺産では屋久島及び白神山地を国内推薦リスト

に搭載している。

## □既登録遺産(抜粋)

### A文化遺産

タージマハール (インド)  
ボロブドゥル(インドネシア)  
アユタヤ遺跡(タイ)

敦煌の石窟(中国)  
モヘンジョダロ(パキスタン)  
アウシュビッツ強制収容所  
(ポーランド)

### B自然遺産

キリマンジャロ国立公園  
(タンザニア)  
ビクトリア滝  
(ザンビア・ジンバブエ)  
グランドキャニオン国立公園  
(アメリカ)  
ドナウ河の三角州  
(ルーマニア)

## 「ヒロシマユネスコ」 復刻版発行

今年、広島ユネスコ協会結成、20周年を迎えた。これを記念して「ヒロシマ・ユネスコ」(機関紙)の創刊号から第32号までを集めた復刻版(B5判、百二十二ページ)をこのほど発行した。現在、図書館等に送付しているが、会員以外の方で希望の向きは事務局へどうぞ。

## 一九九三年度総会

## 新役員選出、規約一部改正

一九九三年度広島ユネスコ協会総会を5月22日、広島市国際青年会館で開催し、年度計画と予算を審議、決定した。また、規約については、総会の開催時期を「年度初め」と規定、役員の任期を「2年」と改めた。

## 新役員メンバー(※は新任)

名誉会長 平岡 敬  
顧問 永井滋郎、沖原 豊  
古川浩司、河村盛明、  
倉田信雄  
会長 松原博臣  
副会長 加藤朗一、信井正行

理事 深崎敏之※伊東亮三

《教育活動》常任 太鼓矢  
普本家正文、上本忠則。理  
事 溝上 泰、平岡豊恵。

※米山幸夫

《組織活動》常任 山崎克  
洋、北川健二、藤森 巖。

理事 瀬田 洋、水野文隆、  
上田義文

《文化活動》常任 新川貞  
之、末野 忍。理事 中谷

美保子。※光田 鈔、住川  
典文

《国際交流活動》常任 永

田龍男、藤井正一、長迫凱  
朗。理事 熊崎賢三、由田

千鶴子。※今中圭介  
《広報活動》常任 亀井

章、内田憲全。理事 山本  
隆信、藤井孝行。※中道紘二

《平和活動》常任 高橋昭  
博、古田碩永、竹沢臣子。

理事 木原 亮、木村進匡。  
※松岡盛人

《事務》局長(兼)信井正行。  
常任理事 上橋穂詔、西村

憲治。理事 国田 繁。※  
岡平裕次

《幹事》吉岡尊治、成田鉞雄





## 東南アジアの人びとの 暖かい心に触れて

永田龍男

8月21日から30日までの十日間、第3回広島ユネスコ高校生海外研修の生徒引率でマレーシア、シンガポール、インドネシアを訪れた。団長は深崎敏之副会長、生徒数は八名であった。詳細はいずれ「海外研修報告」の冊子にまとめる予定であるので、今回はこの十日間のいくつかのエピソードの紹介にとどめさせていただくことにする。

海外旅行が初体験の生徒がほとんどであったが、彼女達の心の緊張を、まずときほぐしてくれたのが、第一夜、クアラ・ Lumpurでの夕食である。ガイド氏の推奨でとった料理は「生焗または火焗」、英語では steam boat (蒸気汽船) と呼ばれるものだった。葉草入りのスープを用いた魚介類と野菜のシャブシャブ、という説明でおわかりいただけるだろうか。これが私たちの味覚にピッタリと一致し、生徒たちも「おいしい」を連発しつつ鍋を空にした。露店のような開放的な雰囲気、庶民的な

応待にホッとする思いだった。

次に生徒達が心なごませたのは、マレーシアの古都マラッカ。落ち着いた街のたたずまいもさることながら、道行く人びとも気軽に声をかけてくれる。赤壁のマラッカ・キリスト教会前の小広場での交歓風景は印象的であった。ベチャを職業とする68



「歓迎広島ユネスコ協会」の横断幕の前で「クスマ・サヒド・プリンスホテル（ソロ、インドネシア）」

歳のおじさまが、ベチャに乗っている姿を記念撮影しなさい、と生徒に話しかけてきたのが発端である。生徒は次々に応じてさかんにシャッター音を響かせる。眼を細めて慈父のような暖かい眼差しで見守るおじさま。その内に、生徒達から「おじさま入って！」肩を組み合い、はじける笑声が、まわりに憩う人びとの頬に微笑を呼び、その輪が徐々に広がっていった。結局そのおじさまは商売そっちのけで、小半刻を私たちのために費してくださった。日本占領時代の、幼少の頃の思い出を、心をこめて語り、愛国行進曲を日本語で披露してくれたのである。

交歓のハイライトは、研修の最終地、バリ島で訪れる。現地青年六人が三台の車を駆って私たちを海水浴に連れていってくれた。彼らは私の知人の四兄弟とその従弟たちなのだが、まず日本人観光客が訪れることのないと思われるパダンバイという寒村の海岸が目的地だった。彼らの信仰上の理由と、文化の違いからくる齟齬によって、往復四時間を要する遠距離を、護送車を思わせる固い座席にシシ詰めになされての強行軍であったが、着いてからの交歓は生徒達の心に深い印象を刻みつけたようである。言葉はわからなくとも、彼らの持参した簡易シュノーケルの使い方を教わって早速トライしたり、ただワイワイと水しぶきをあげたり、一緒にカメラにおさまったり、太陽は西に傾き、わずか1時間余りではあったが、生徒たちは彼らの好意の底にある暖かい友情をしつかりとうけとめたようである。

(広ユ協常任理事)

## 国際理解の 研究提起さる

このほど当協会へ文部省ユネスコ係経由、日ユ協連から「国際理解のための活動に関する調査研究」の提案があった。その内容は、その目的に応じてどのような事業内容を選定、実施していくかを問うもので、目下、その対応を検討中である。

## ユネスコ・チャリティー・コンサート

### ルーマニア国立

### ブカレスト・フィルハーモニー管弦楽団

創立107年の、ヨーロッパでも長い伝統をもつ名門管弦楽団。チャウシェスク政権下、西側での公演はほとんどなかったが、待望の日本演奏会が実現した。

国内10都市で公演が行なわれるが、被爆地広島での公演はユネスコ・チャリティー・コンサートとして催され、出演料の一部がパリのユネスコ本部を通じて外国戦地の教育資金として贈られる。

日時 11月5日(金) 18時30分  
会場 広島国際会議場フェニックスホール

曲目 モーツァルト/交響曲第41番「ジュピター」。J・S・バッハ/ブランデンブルク協奏曲第5番。ベートヴェン/交響曲第5番「運命」

鑑賞券 一般 4,000円  
学生 3,000円  
主催 コンサート実行委員会  
広島ユネスコ協会

◎鑑賞ご希望の会員はユネスコ事務局へお問い合わせください。